

シンチは、検査費用が96,260円(当院ルチーン検査)と高く患者の経済的負担が大きい検査だけに、その適応を十分考慮する必要があり、かつ、他科医師への啓蒙も、われわれ放射線科医の務めではないかと考えられた。

24. Beautiful bone scan pattern を呈した胃癌骨転移例

西岡 正俊	森田荘二郎	沢田 章宏
山本 洋一	上地 修	小原 秀一
前田 知穂		(高知医大・放)
赤木 直樹	森田 賢	浜田富三雄
(同・放部)		

今回われわれは骨シンチ上、いわゆる Beautiful bone scan のパターンを呈し、生検にて、胃癌、前立腺癌の骨転移と診断された2例を経験したので、若干の文献的考察を加え報告した。胃癌骨転移例では典型的な absent kidney sign を呈したが、前立腺癌例では腎、膀胱が軽度描出され、診断に当たっては全体のバランスに注意する必要がある。

なお、本症例ではいざれも広範囲の強い骨 Ga 陽性集積を示した。

25. 骨シンチグラフィによる Sterno-costo-clavicular Hyperostosis の診断

大塚 信昭	福永 仁夫	曾根 照喜
永井 清久	村中 明	古川 高子
柳元 真一	友光 達志	森田 陸司
(川崎医大・核)		
今井 茂樹	梶原 康正	西下 創一
(同・放)		

胸骨、第一肋骨および鎖骨をとりかこむ領域に異常骨化をもたらす胸肋鎖骨間骨化症は1974年に国崎によって報告された原因不明の疾患である。今回われわれは本症と診断された4例について骨シンチグラフィ所見を中心に報告した。いざれの症例も胸鎖関節部を中心に強い集積を示す特徴的な像を示した。なお、4例中2例は掌蹠膿疱症と慢性扁桃腺炎を合併していたが扁桃腺摘出後も骨シンチグラフィに変化は認められなかった。また、他の1例は乳癌を合併しており、日常の骨シンチの読影の際、骨転移との鑑別にも本例を入れるべきと考えられた。

26. 多発性骨髄腫の骨病変の検出における骨シンチグラフィと骨髄シンチグラフィの比較

大塚 信昭	福永 仁夫	曾根 照喜
永井 清久	友光 達志	柳元 真一
村中 明	森田 陸司	(川崎医大・核)
井上 信正	杉原 尚	八幡 義人
(同・血液内)		

多発性骨髄腫14例(未治療例6例、化学療法施行例8例)について、骨・骨髄シンチグラフィを施行し、多発性骨髄腫の骨病変の検出における有用性を検討した。多発性骨髄腫の未治療例6例の骨シンチグラフィの内訳は正常像3例および欠損像3例であった。これらの症例では骨髄シンチグラフィの方がより多くの病変部位を指摘でき、また浸潤範囲を明瞭に描出できた。

一方、化学療法施行例の8例は骨シンチグラム上、全例、集積増加を示した。一方、骨髄シンチグラフィでは骨シンチ上、集積増加を示した部位でも正常像を呈する例が多く認められた。多発性骨髄腫の骨レ線像は特徴的な所見を示すが、治療による骨病変の変化はとらえ難い。したがって、多発性骨髄腫の骨病変の評価には骨シンチグラフィに骨髄シンチグラフィを併用することの有用性が認められた。

27. $^{111}\text{In-chloride}$ 骨髄シンチグラフィの血液疾患における有用性の検討

—骨髄生検像との対比を中心として—

藤島 譲	平木 祥夫	新屋 晴孝
佐藤 伸夫	山本 淑雄	清水 光春
黒田 昌宏	橋本 啓二	森本 節夫
青野 要		(岡山大・放)

erythropoietic marrow scanning agent として臨床的に導入された $^{111}\text{In Cl}$ による骨髄シンチグラフィーの、血液疾患における有用性を検討したので報告する。対象は、昭和56年1月より昭和60年5月までに施行された症例のうち、内科的データのそろった49例で、造血骨髄部位9か所の uptake の程度を3段階に分け、スコアを与え、それと内科的血液学的所見とを比較することによって行った。また腸骨稜後部の uptake の程度と biopsyとの比較を行った。

再生不良性貧血の症例においては、白血球数、血小板数とで相関し、3型に亜分類することができた。また biopsy との比較でも一致を示していた。また Hodgkin 病の Staging でも骨髄シンチグラフィは有用であった。ただ白血病の症例においては、¹¹¹InCl による骨髄シンチグラフィーの臨床的有用性は確認できなかった。

28. 当院における甲状腺癌の¹³¹I 内用療法の現況

川瀬 良郎 濑尾 裕之 日野 一郎
 佐藤 功 児島 完治 高島 均
 大川 元臣 玉井 豊理 田辺 正忠
 (香川医大・放)
 宮内 明 前田 正純 (同・二外)

分化型甲状腺癌に対するヨード内用療法の有用性が諸施設から報告されている。当院でも昭和59年11月よりヨード内用療法を開始した。方法は Bierwals らに準じて 3 mCi で取り込みを確認後、残存甲状腺に対して 100 mCi、肺転移に対して 150 mCi、骨転移に対しては 200 mCi が投与されている。現在までに 9症例と少なく、また経過観察期間も短いが、肺や骨に転移のある数例で効果を認めている。有効例として、胸部X線写真で肺野に多発性小結節影を呈し、¹³¹I 3 mCi の取り込みがあり、内用療法後 3か月の胸部写真で異常影の消失した症例を供覧する。

29. ^{99m}TcO₄⁻ を用いた甲状腺シンチグラムの検討

伊藤 信昭 佐々木正博 向田 邦俊
 中西 敏夫 (広島大・放部)
 小山 矩 勝田 静知 (同・放)

過去2年間頸部精査の目的で、^{99m}TcO₄⁻ を用いて行った108例の甲状腺シンチグラムについて検討した。

その結果、(1) 甲状腺腫大像例は8例で、すべて甲状腺が触知できたび慢性甲状腺腫であった。(2) 陰影欠損像例の、40例中38例が結節性甲状腺腫であった。しかし、良性と悪性腫瘍との間で陰影欠損像の出現率に差異を認めなかった。(3) 甲状腺内の異常集積像例は4例認めたが、甲状腺疾患との関連は明らかにできなかった。しかし、甲状腺外の異常集積像症例の3例は、いずれも異所性甲状腺例であった。(4) 甲状腺描画不良像例の11例の

中、4例は甲状腺機能の軽度低下例、2例は悪急性甲状腺炎初期例であった。しかし、2例は甲状腺機能正常の乳頭腺癌および縦隔腫瘍例であった。

以上より、甲状腺疾患のスクリーニングには被曝線量が少なく、廉価で前処置の不要な ^{99m}TcO₄⁻ は良い核種と考えられる。

30. ²⁰¹Tl-Cl による甲状腺癌の転移の検出

永井 清久 福永 仁夫 大塚 信昭
 曽根 照喜 村中 明 古川 高子
 柳元 真一 友光 達志 森田 陸司
 (川崎医大・核)
 原田 種一 (同・内分泌外)

甲状腺癌の転移に対する ²⁰¹Tl-Cl シンチグラフィーの有効性を検討した。甲状腺癌17症例（うち転移を認めたもの12例）に ²⁰¹Tl-Cl 2 mCi を静注し、直後より20分後までの early scan を施行した。転移を認めた12例中の8例の転移巣に Tl-201 の集積を認めた。転移を認めなかった5例ではなんら異常集積は認めなかった。組織別では乳頭腺癌の転移8例中の6例に、ろ胞腺癌の転移1例中の1例に Tl-201 の集積を認めたが、未分化癌の1例には集積しなかった。転移の部位別では、骨転移は2例中の2例に、肺転移では4例中の3例に、リンパ節転移では9例中の6例に Tl-201 の集積を認めた。以上のように Tl-201 の甲状腺癌転移に対する成績は良好であり、縦隔部などの他の方法では診断しにくい部位では非常に有力な診断手段と考えられる。またヨードと異なり甲状腺の全摘をせずとも良好な画像が得られ、亜全摘後の follow-up にも有用である等の利点もあり、甲状腺癌の転移に適した核種であることが示された。

31. 甲状腺腫瘍におけるタリウムシンチグラフィの有用性について

佐藤 伸夫 森本 節夫 上田 裕之
 中村 哲也 平木 祥夫 青野 要
 (岡山大・放)

¹³¹I または ^{99m}Tc によるシンチグラフィで欠損像として描出された乳頭腺癌7例、ろ胞腺癌7例、悪性リンパ腫1例、腺腫23例、のうち3例について ²⁰¹Tl シンチグ